

講義コード	515101103	
講義名	児童文化I EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	横井 夏子	女子短期大学部
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし
非常勤教員	遠藤 隼	女子短期大学部

### 授業の概要

#### 授業の概要

前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべも学んでいただきたい。

#### 授業の方法

##### ①プレゼンテーションの方法

基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。

##### ②授業形態

基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。

##### ③アクティブラーニング

授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。

##### ④課題に対するフィードバック

フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。

### 授業の到達目標及びテーマ

本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。

これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。

### 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	予習	復習

第1回	横井夏子 遠藤隼	第1回：ガイダンス 豊かな遊びの数々、幼少期の遊びの思い出	授業のガイダンス及び、幼少期の遊びを振り返るワークショップを実施	特になし	特になし
第2回	横井夏子 遠藤隼	第2回：伝承遊び	道具を使わない遊びを体験する	特になし	体験した遊びをまとめる
第3回	横井夏子 遠藤隼	第3回：集団遊び	道具を使った遊びを体験する	特になし	体験した遊びをまとめる
第4回	横井夏子 遠藤隼	第4回：新聞紙遊び	新聞紙を使った遊びを体験する。遊びの連続を体験を通して理解する。	特になし	体験した遊びをまとめる
第5回	横井夏子 遠藤隼	第5回：折り紙	伝統的な折り紙の基礎をワークショップ形式で学ぶ	特になし	体験した遊びをまとめる
第6回	横井夏子 遠藤隼	第6回：折り紙——幼児への指導を想定した折り紙	ロールプレイング形式での折り紙指導を体験し、伝える術を学ぶ。	特になし	体験した遊びをまとめる
第7回	横井夏子 遠藤隼	第7回：絵本1—絵本について（図書館）・絵本の読み聞かせのビデオ・グループ練習	絵本の読み聞かせの導入とグループワークでの読み聞かせの実施	特になし	発表へ向けた読み聞かせの練習
第8回	横井夏子 遠藤隼	第8回：絵本2—グループ練習	グループ内での絵本の読み聞かせ練習	発表に向けた読み聞かせの練習	発表に向けた読み聞かせの練習
第9回	横井夏子 遠藤隼	第9回：絵本3—絵本の読み聞かせの発表	クラス全体へ向けた読み聞かせの発表とフィードバック	発表に向けた読み聞かせの練習	フィードバックを踏まえた読み聞かせの練習
10	横井夏子	第10回：紙芝居 <sup>1</sup> —グループ練習	紙芝居の導入とグループワ		

第 回	遠藤隼	の導入	ークでの実施	特になし	発表へ向けた練習
第11回	横井夏子 遠藤隼	第11回：紙芝居 <sup>2</sup> —グループ練習	グループ内での絵本の読み聞かせ練習	発表に向けた練習	発表に向けた練習
第12回	横井夏子 遠藤隼	第12回：紙芝居 <sup>3</sup> —紙芝居の実演	クラス全体へ向けた発表とフィードバック	発表に向けた練習	フィードバックを踏まえた練習
第13回	横井夏子 遠藤隼	第13回：グループワーク1—キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ・班分け	グループワークキャンプの導入	特になし	特になし
第14回	横井夏子 遠藤隼	第14回：グループワーク2—班旗作り <sup>1</sup> （グループの旗のデザイン、下書き）	班の班旗のデザインと制作	特になし	特になし
第15回	横井夏子 遠藤隼	第15回：グループワーク3—班旗作り <sup>2</sup> （布描きクレヨンで描く）	布描きクレヨンを使った旗作り	特になし	特になし

#### 授業時間外の学修

事前に単元となる教科書の下読みをして授業に臨む。  
（各回の予習には15分かかると想定される。）

また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施すること。  
（各回の復習には30分程度かかると想定される。）

#### 実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

#### ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
○	◎	◎	◎

#### ルーブリック

--	--	--	--	--

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
グループワーク内容の理解 (予習も含む)	自ら進んでグループワークに関する内容を調べ理解できており、その内容を他者にも詳しく説明することができる	グループワークに関する内容を調べ理解できており、その内容を他者にも概ね説明することができる	グループワークに関する予習はやれているが、その内容理解はあいまいな点がある	グループワークに関する予習が不足しているため、その補充を教員が助言している
グループワークの際の行動・態度	課題設定手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめている。画面がとも見やすい。	課題設定の手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめている。	課題設定の手順と実際等が、教員の支援を基にまとめている。	教員の支援があっても、なかなか自身でまとめをすることができない。
レポート力 (レポート内容)	グループワークのテーマについて、詳細な考察をまとめている	グループワークのテーマについて、考察をまとめている	グループワークのテーマについて、考察をまとめているが、内容についてあいまいな点が少しある	テーマについての考察がなされていないので、手厚い支援を行っている

## 成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	50%	演習の各種アクティビティ、授業態度
レポート	50%	2本課題レポートを課す
その他		

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する

## ICTを活用した双方向型授業の内容

等	クリッカー、アンケート、小テスト
---	------------------

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60~100%程度のアクティブラーニングである
--------------------------------

## アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション	PBL(課題解決型授業)	授業後レポート

## 教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

## 参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

## SDGsとの関連

## 4. 質の高い教育をみんな

に

## 特記事項等

## ①実務経験のある教員

本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。

## ②科目のナンバリング

SCO1107

## ③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

## ④その他の特記事項

10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。

## 研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室

出講日は、前期が火曜日・水曜日・木曜日、後期が火曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

## 電話番号

028-667-7111（代表）

## 授業用E-mail

[yokoi@sakushin-u.ac.jp](mailto:yokoi@sakushin-u.ac.jp)

## 成績評価法

- |       |     |                   |
|-------|-----|-------------------|
| ①試験   | 0%  | 試験は実施しない          |
| ②レポート | 50% | 2本課題レポートを課す       |
| ③平常点  | 50% | 演習の各種アクティビティ、授業態度 |
| ④その他  | 0%  |                   |